

「あいさつ」

交通安全国民運動を更に力強く推進

財団日本交通安全協会

会長 今井 敬

本日、衆議院副議長、国家公安委員会委員長をはじめ要路の方々のご出席をいただき、第五十一回交通安全国民運動中央大会を開催できますことは、主催者として、大いに喜びとするところでございます。

また、全国から本大会にご参加の皆様方には、日頃から、交通安全運動に格別のご尽力、ご協力を賜っており、そのご労苦に対し、心から敬意と謝意を表する次第であります。

進する決意をここに新たにするものであります。

全日本交通安全協会といたしましても、皆様方とともに、子どもと高齢者の交通事故防止や、歩行中、自転車乗用中の交通事故防止、飲酒運転の根絶など、交通事故の発生実態を踏まえた、様々な交通安全諸対策の推進に、全力を尽くしてまいり所存でありますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日の大会で表彰を受けられる皆様のご功績を讃えますとともに、全国からご参加いただいた皆様方には、永年にわたって培ってこられた豊富な知識と経験を存分に活かされ、地域、家庭、学校、職場での交通安全活動の推進者として、今後一層ご尽力下さいますようお願い申し上げます、私のご挨拶といたします。



さて、ご承知のとおり、昨年の交通事故による死者数は四千八百六十三人で、昭和二十七年以来五十七年振りに五千人を下回った一昨年を更に下回り、十年連続で減少となりました。また、発生件数、負傷者数も、ともに六年連続で減少しました。

こうした成果は、長年にわたって官民が一体となって、各般の交通安全対策を精力的、継続的に推進してきたことによるものであります。

しかし、昨年は、死者数が減少したとはいえ、その減少は僅かであり、年半ばかりは、月間死者数が前年同月の数を上回る月が多くなり、

十二月には、前年より三十九人の増加となるなど、現下の交通事故情勢は、未だ樂觀を許さないものがあります。また、もとより、年間の死者数が依然五千人近くに上り、負傷者が九十万人に及ぼんとする交通事故が、国民の安全、安心を脅かす最大級の災禍であることに変わりはないと存じます。

私たちは、関係機関・団体はもとより、国民各層の連携を密にして、悲惨な交通事故が一件でも少なくなるよう、国民一人一人の交通ルールを遵守する意識を高めて、交通安全のための国民運動を、一層力強く推